

福祉

朝晩と少し肌寒さを感じる季節になりました。

日中は暑すぎず、寒すぎない。このような時期に、ぴったりなのが、入浴介助の演習です。今回は、入浴介助の授業を紹介します。

入浴には、身体を清潔に保つという効果もあるのですが、ものごとに取り組む意欲につながる。リラックスできる。身だしなみが整うことで、人と接するとき安心して、人間関係を円滑にするという、心理的・社会的な意義もあります。

今回も、介護施設職員である外部講師の指導のもと、校内にある入浴設備を使い、実際に入浴介助を体験しました。

いなべ総合学園高等学校には、介護施設で使われている入浴機材が設置されており、介護施設に近い環境で学習することができます。今回は、チェア浴と機械浴の二つを体験しました。チェア浴は、座ったまま浴室に入れるもので、座ることができる人が利用します。機械浴は、横（仰向け）になった状態で浴室に入ることができます。

生徒たちは、外部講師の指導を受けながら、安全かつ安心を与える入浴介助を学習しました。



いなべ総合学園の入浴機材
手前がチェア浴、奥が機械浴です。



チェア浴用のイス



入浴中は身体がやわらかくなるので、
拘縮している方の手もマッサージしやすくなります。



チェア浴で入浴中。
下から気泡が出て気持ち良いです。

授業後に生徒が書いた感想として、下記のものがありました。

良い点

- ・(チェアー浴・機械浴は) すごい機能だなと思った。家で入っているお風呂よりすごいものに感じた。
- ・気泡が出る機能があって、とても気持ちがよかったです。

課題

- ・入浴中は、バンドで縛られているので、自分の動きたいように動けないのが嫌だな、と思った。安全を確保するためには、仕方ない面もあるが、何か解決策はないか考えていきたい。
- ・機械浴での入浴介助の利用者さん役として介助を受けました。入浴台は高さがあり、落ちる心配があるので、不安でした。常に横に介護者がついておくことが必要だと思った。
- ・浴槽に入っている間は温かかったけど、お湯から出ると思ったよりも早く冷えて寒くなりました。私たちは寒くても我慢すればたいしたことはないけど、特に体の弱い利用者さんは、何かあってからだといけないから、素早く拭いたり、早く服を着てもらったりなどの注意が必要だと思いました。
- ・座って入るお風呂(チェアー浴)より、寝て入るお風呂(機械浴)のほうが、水面に頭が近いので怖かった。また、泡(気泡)を出しているとき、機械の音がうるさいと思った。こういった音を嫌がる方もいると思うので、楽しい音楽を流してみてもいいかなと思った。

生徒たちは、今回の体験を通して、良い点だけでなく、課題にも目を向けて、書いていくことができます。また、見つけた課題をどのように解決できるかというところまで、考えている感想もあります。今回の入浴介助の演習は、生徒たちにとって「よりよい入浴介助とは何か」ということ考える機会になったようです。



機械浴で入浴中



仰向け状態での洗髪